

もったいない運動と古紙削減について

事業場名	株式会社東芝セミコンダクター社 マイクロエレクトロニクスセンター
事業内容	ディスクリート、システムLSI、メモリ半導体の技術開発
事業規模	従業員数550名
廃棄物データ	産業廃棄物 発生量計：1,094.1 t（平成20年度実績） 特別管理産業廃棄物 発生量計： 9.27 t（平成20年度実績）

上記は、株式会社東芝セミコンダクター社 マイクロエレクトロニクスセンター小向地区のデータです。

【取組の概要】

株式会社東芝セミコンダクター社 マイクロエレクトロニクスセンターは「もったいない運動」と「古紙の削減」に取り組んでいます。取り組みの対象は小向地区（川崎市幸区小向東芝町1）、半導体システム技術センター（川崎市幸区堀川町580-1）、大船分室（横浜市栄区笠間2-5-1）の3地区です。

2006年から始まった「もったいない運動」では、社内の各部署で不要となったものを社内ネットワーク上に集約し、必要としている他の部署に提供するというシステムで運用しています。

また、社内では莫大な量の紙を使用しており、使用済みの紙は製紙原料として再利用しているものの、使用量の削減が課題となっていました。そこで、2007年から、OA用紙3割の削減を目標とした古紙削減の取り組みに着手しました。

【もったいない運動】

1 取組の内容

(1)「もったいない運動」の開始

廃棄物排出量削減のために、各部門に年間の廃棄物廃棄量（目標値）を割り当て、活動しています。その中である部門から、「まだ十分使えるのだが、不要になったので他の部署で引き取ってもらえないか。」という要望がこれまでありました。一方、リユース可能なものでも、職場で不要と判断したものについてはもったいないのですがやむなく廃棄処分されていました。このように不要になり、廃棄されるものの中には、社内アナウンスすることによって有効利用されるものが多くありました。これを常態化することによって廃棄物排出抑制につながることに注目し、「もったいない運動」を開始しました。スタートは3R推進月間中に行った展示会で、二日間で670kgのリユースがありました。これを受け、2006年12月からシステム化して通年の運用を開始しました。

(2)「もったいない運動」のシステム化と拡大

運用当初は書類（提供申込書、希望申込書）で行っていましたが、2008年の12月か

らは利便性の向上を図るため、社内ネットワーク上での利用を可能にしました。さらに、当事業場内で利用者が現れなかった提供品に関しては、東芝グループ全体で展開する「もったいないプレイス」に出品し、さらなる利用機会の拡大に繋げています。

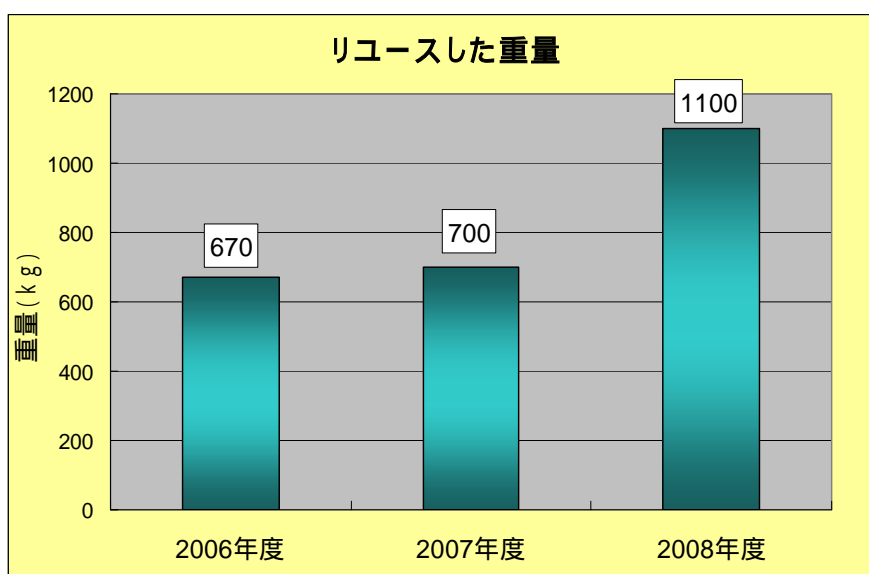
「もったいないプレイス」は東芝グループにおける社内向け遊休活用サイトでパソコン/周辺機器類/オフィス用品/計測器類を扱っています。

2 問題の解決に苦労した点

書類での運用の場合、提供申し込みから再利用申し込みまでの記録を取る必要があり、また、提供品のホームページへの掲載も行っていたため、事務作業に手間が掛かっていました。そこで、社内ネットワーク上にデータベース化することで、利用者がリアルタイムで提供申込、再利用申し込みができるように改善しました。

3 取組の成果

定期的で開催している展示会でのリユース重量が、2006年度は670kg、2007年度は700kg、2008年度は1,100kgになりました。机・椅子等の什器類、ノート・ボールペン等の文房具、OA機器用アクセサリ、工具類と様々な備品がリユースされました。



4 今後の取り組みについて

現在はもったいない提供品が出されてから提供者が利用希望者に引き渡すという運用になっていますが、今後は必要としているものを登録してもらうシステムも付加し、さらに活発化した運動とする予定です。また、現在利用できる従業員にも制限があるため、利用拡大に向けたシステムのバージョンアップを検討しています。

【古紙の削減】

1 取組の内容

(1) 古紙の削減の開始

廃棄物削減を推進する中で、各部門とも削減可能なアイテムの発掘に苦慮していました。そこで、廃棄物の中でも大きなウェイトを占めている古紙の削減に注目し、OA用紙の大幅削減を目指しました。2007年度上期をベースに、3割削減を目標として、N-up印刷（1枚の紙に複数ページを印刷）、両面印刷等を実施。また、会議等で他社の紙削減等の取り組みを社内で紹介し、意識啓発を行いました。

(2) MFP (Multi Function Peripheral) への切り替えと個人認証カードの導入

2008年度の上期には社内にあったプリンターをMFPに切り替え、プリンターの初期設定をN-up、両面、白黒に固定することによって無駄な印刷ができないように社内体制を整えました。また、2008年度下期には個人認証カードを導入し、無駄な印刷を行わないよう、使用枚数の管理、OA用紙を多量に使用している利用者へのインタビューによる意識啓発等を行ってきました。同時に、各課使用枚数に応じた課金方式に切り替え、OA用紙の削減を促しました。

MFPとは、複数の機能を搭載した複合的な周辺機器のこと。**MFP**は、例えば1台でプリンターとスキャナー、コピー機、FAXなどの機能を兼ねる機器などが該当する。

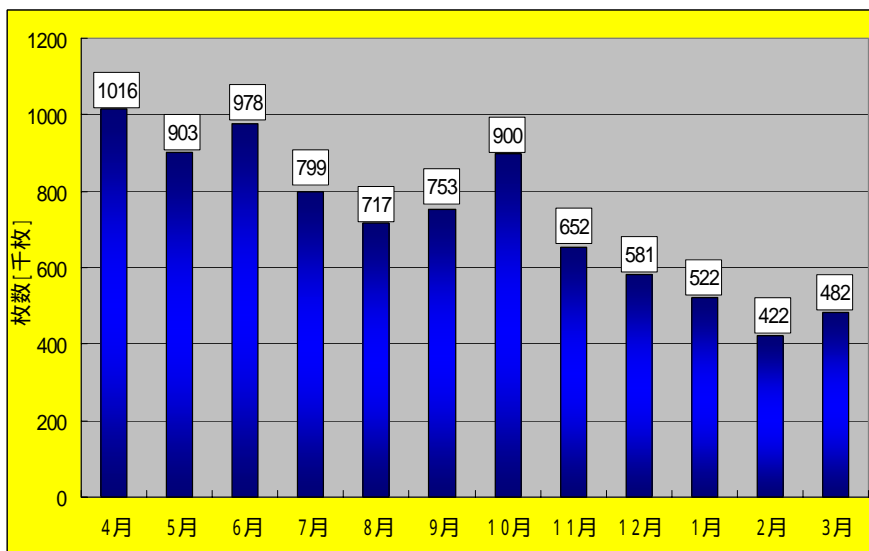
2 問題の解決に苦労した点

従業員に対して印刷物を減らすことへの理解と協力を得るのに苦労しました。『仕事で紙を使っている。いっぱい使うのは仕方ないじゃないか。』、そんな思いが従業員にはありました。そこで、古紙削減のためにはまずは従業員の意識改革が重要と考え、他社の取り組み事例の紹介、現状認識のためのアンケート実施と分析、取組状況報告会等を実施しました。

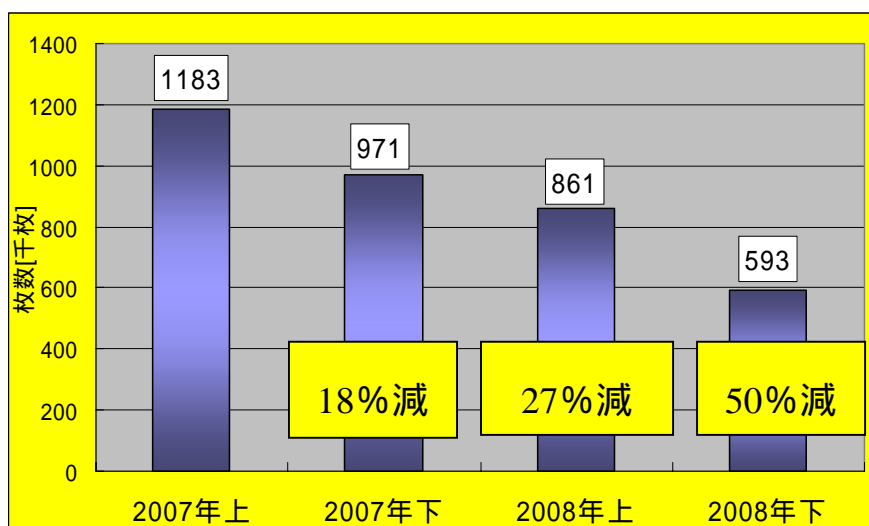
3 取組の成果

一ヶ月あたりのOA用紙使用量が、2007年上期に比べ、N-up印刷、両面印刷を始めた同年下期には18%削減でき、MFPを全職場に導入し、プリンターの初期設定をした2008年上期には27%の削減を達成しました。また、個人認証カードを導入した2008年下期には、当初目標であった30%を大きく上回る50%の削減を達成しました。さらには、単機能プリンターからMFPに切り替えたことによって、インクカートリッジの共通化が可能となり、プリンターの種類毎のインクカートリッジの余剰保有の削減、MFPの一元管理によりメンテナンス業務を専任化することによるインクカートリッジの職場での交換作業低減もできました。なお、機器の台数も1/10に減少したことによって電力使用量の削減にもつながりました。

2008 年度 O A用紙月別使用実績



期別 O A用紙一ヶ月当たり使用実績



ベースライン (N-up、両面推奨) (プリンター) (個人認証カード)
 (事例紹介) (初期設定) (導入)

4 今後の取り組みについて

印刷の用途分析を進め、無駄な印刷はないか、コピー、印刷に代わるものはないか等、さらなる削減のアプローチを図ります。